

部活動

4月27日（水）に部活動編成（へんせい）がありました。この日で、今まで部活動を見学してきた1年生が、いよいよどの部活動に入るかを決めたこととなります。

それぞれの部が集まっている各教室をすべてまわってみました。どの教室も同じ空気に包まれていました。それは、新しく入ってきた1年生を温かく迎え入れるという2・3年生の雰囲気（ふんいき）と1年生の緊張感（きんちょうかん）からくるものでした。

どの教室も、2・3年生はうれしそうでした。後輩にあたる1年生が入ってくるというのは、いいものなのでしょう。中学校ならではの光景（こうけい）でした。

もう何十年も前のこととなります。中学校に入学し、私はソフトテニス部に入りました。それまでソフトテニスをやったことはありません。ラケットを持ったこともありません。それでもやれそうな気がしました。

部活動は、毎日楽しみで仕方がありませんでした。早く部活動の時間にならないかと思っていました。帰りの学活が長いと、イライラしたものです。学活が終わると、ダッシュでテニスコートに行ったことを覚えています。部活動といってもボール拾いをしているだけなのですが、それでも十分楽しかったのです。

早くボールを打ちたいし、早くうまくなりたかったので、先輩がボールを打つ様子をよく観察していました。ボール拾いも、誰にも負けなくらい一生懸命にやりました。おかげで、高校、大学、そして顧問（こもん）として、ずっとソフトテニスを続けましたが、ボール拾いは苦になりません。テニスコートにボールが落ちていると、気になってしまいます。野田中学校の校庭でも、何度かボールを拾いました。

週末には、まだ打ち方もよくわからないにもかかわらず、友達とボールを打ち合いました。家でも壁（かべ）打ちをしました。素振りもしました。すべてが楽しくて仕方がありませんでした。

今は、時代が違うのかもしれませんが、1年生には、昔の私のような純粹（じゅんすい）な気持ちを大切にしてほしいと思います。吹奏楽部の楽器でも同じでしょう。初めて楽器を手にしたとき、初めて音が出たとき、初めて一つの曲を演奏することができたとき、すべてが感動でしょう。

制作部で作品が仕上がったときの気持ちは、どんなものなのでしょう。その作品が展示されたときは、どんなことを思うのでしょうか。

1年生の部活動は、中学校生活の柱となります。2・3年生は、温かく迎え入れた気持ちを、これからも大切にしてください。どの部活動も、皆さんにとって中学時代の財産となることを願っています。